



SSH通信



Sapporo Kaisei Secondary School

2019年度(令和元年)

第19号

2020年1月22日 発行

発行責任者:SSH委員会

SSH「タイ国 海外研修」についてご報告

研修期間:令和元年12月18日(水)~12月24日(火) 5泊7日

参加者:引率教員1名 生徒2名

参加目的

- ①ICTに関する課題研究の発表・交流を通じて、ICTをテーマとした課題研究の発展を促す。
- ②ICTの課題研究を通じて、ICTにかかわる科学的な用語を英語で用いることで、科学的な語学力の向上を図る。
- ③タイ国や国内におけるSSH校との交流をすることで、今後の共同研究やお互いのさらなる交流の機会の進展につなげる。

●スケジュール詳細

12月18日(水) 新千歳空港(10:00)→スワンナプーム空港・バンコク市内ホテル

12月19日(木) ホテル→ドンムアン空港→ウボンラーチャターニー空港

→Princess Chulabhorn Science High School Mukdahan→生徒:Dormitory4/引率:ホテル

12月20日(金) 引率:ホテル/生徒:Dormitory4→Princess Chulabhorn Science High School Mukdahan

→生徒:Dormitory4/引率:ホテル

12月21日(土) 引率:ホテル/生徒:Dormitory4→Princess Chulabhorn Science High School Mukdahan

→生徒:Dormitory4/引率:ホテル

12月22日(日) 引率:ホテル/生徒:Dormitory4→Mukudahan area

→Mukudahan area 発 Princess Chulabhorn Science High School Mukdahan

→生徒:Dormitory4/引率:ホテル

12月23日(月) 引率:ホテル/生徒:Dormitory4→ウボンラーチャターニー空港→スワンナプーム空港

→Bangkok area→スワンナプーム空港

12月24日(火) 新千歳空港着(8:30)

●TJ-SIF2019とは



Thailand - Japan Student ICT Fair 2019

"Seeding Innovations Through Fostering Thailand-Japan Youth Friendship"

TJ-SIFとは、タイ王国に12校あるプリンセスチュラボーン・サイエンスハイスクール(PCSHS)の主催で毎年開催しているサイエンスフェアのことで、国際交流を目的として、タイ教育省基礎教育委員会(OBEC)が2016年から日本の多くのスーパーサイエンスハイスクール(SSH)のプログラムを実施している高校や高等工業専門学校を招聘して実施しているものです。今回のフェアでは、ICTをテーマにIoT Application、Robotics、Automotive、Software、Smart Electronic、Otherの6つのカテゴリーごとに研究発表を行いました。タイ国においては、この大会への注目度は高く、タイの教育省の方々が研究発表の聴講に訪れるとともに、多くの報道陣がフェアの様子を取材していました。タイの生徒の英語力やプレゼンテーション力は非常に高く、日本のトップレベルの学校の生徒たちも見習うところが多かったように感じます。SSHの取り組みを通して、私達も科学の素養やプレゼンテーション能力を磨いていくことが大切ですね。

●参加生徒による感想及び在校生に向けて

今回私達が参加した Thailand Japanese Student ICT Fair 2019 は、イーサーンとも呼ばれるタイ東北部のムクダハンにある Princess Chulabhorn Science High School Mukdahan で開催されました。

ムクダハンはメコン川流域にあり、隣国ラオスとの国境の町です。日中はまさに熱帯、冬なのに札幌の夏と同じかそれ以上暑かったけれど、内陸部なのでバンコクなどとは気候が異なるらしく、日没後は気温が下がり大幅に過ごしやすくなります。早朝には、上着を着ないと肌寒かったです。

参加者は日本とタイの様々な地域からやってきた高校・高専の生徒と先生で、私達開成中等の生徒は、主にピサヌロークのプリンセス・チュラボーン高校の生徒や先生の助けを借りながら活動しました。タイの生徒たちの英語は、独特な訛り故に聞き取りに苦労しましたが、とても流暢なものでした。

文化交流やメコン川にかかるタイ・ラオス第二友好橋を題材にしたワークショップなど、様々なイベントがあり、休む間もないような感じでしたが、そんな中で一番印象に残っているのは、ポスター発表です。私達の発表は、複合現実(MR、現実と仮想空間を互いにリンクさせる技術で、マイクロソフトなどが開発している)における読書システムの開発についてのものでした。タイの教育大臣御一行が私達のポスター展示を訪れ、副長官の方から質問を受けました。短い時間でしたが、日本人ではなく外国人の聴衆を相手にして、英語での発表を行ったのは初めてで、貴重な経験になりました。もっとも、英語での発表や質疑応答には慣れておらず、何度か噛んでしまったり、焦って早口になってしまった部分もあったので、いつかまた発表する機会を得たときのためにも、ALT の先生などを相手に、これからも英語の練習を重ねていきたいと考えています。

なお、来年の TJ-SIF 2020 は、タイの南部、マレーシアに近い地方にあるランという都市で開催される予定です。英語での発表にチャレンジしたい方などがいらっしゃれば、挑戦してほしいと思います。



▲タイの街並み



▲歓迎セレモニー



▲民族楽器体験



▲各国の成果発表会のようす



▲表彰式